

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	主要市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	国の交付金を活用し事業を進めるとともに、用地取得済個所については簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。 事業債活用のため、市道修繕調査を実施し、修繕計画を策定する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	国の交付金を活用し事業を進めるとともに、用地取得済個所については簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。 事業債活用のため、市道修繕調査を実施する。
②①に基づく取組み結果	社会資本整備総合交付金を活用し、用地取得、簡易舗装による保全工事、市道修繕調査を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道	意図(対象をどうするのか)	測量、設計、用地補償、工事を行う。
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要市道における歩道の整備、危険箇所の線形改良、舗装改良を実施し、歩行者等の安全と交通の円滑化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始前は、主要市道でも歩道が無く交通量に見合った幅員や舗装となっていなかった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	主要市道の用地を取得し、簡易舗装による保全工事を実施した。 市道14号線歩道整備工事(L=14m)、市道20号線構造物等撤去工事、市道22号線用地取得(A=98㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	583	243	14	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度からの累計】	7,999	8,242	8,256	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	65.7	-	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	108,182	80,609	金額(千円)	内容		338,466	
国支出金(千円)	46,604	34,656	39,655	物件補償費		154,576	
県支出金(千円)	0	0	14,265	工事請負費		0	
市債その他(千円)	41,900	33,400	9,429	用地購入費		156,800	
一般財源(千円)	19,678	12,553	6,282	物件調査費		27,090	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市の主要な道路でも、歩道が無い箇所や狭い箇所が多く、交通量に見合った幅員や舗装構成になっていない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、主要市道の整備は不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	歩道整備工事、市道22号線、物件補償、用地取得	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	歩道整備工事、市道22号線、物件補償、用地取得	141,510	317,350	当初	192,825	80,609	R1からの繰越	22,028
				R1⇒R2繰越	22,193			
③達成状況	未完了			補正	102,200		現年分	58,581
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。			流用・充当	132			
		令和3年度への繰越額(単位:千円)						157,787

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	交差点改良事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。
②①に基づく取組み結果	市道22号線交差点改良事業に伴う用地購入等を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道の交差点	意図(対象をどうするのか)	交差点の改良による安全性の向上・交通渋滞の緩和
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要な交差点の右折車線、歩道の整備、交差点形状の改良を行い交通渋滞の緩和、交差点付近の安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	視界が悪く、歩行者が横断待ちするためのスペースの無い危険な交差点や、自動車交通量の増加に伴い、渋滞が発生している交差点がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	市道22号線交差点改良事業に伴う用地購入等(A=303㎡)を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	工事实施箇所(累計)	5	7	7	業務取得
	ii	「道路の状況」不満足度	65.7	—	—	市民意識調査
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	41,488	17,895	金額(千円)	内容	85,905	
国支出金(千円)	14,082	8,703	7,973	用地購入費	45,004	
県支出金(千円)	0	0	5,529	物件調査費	0	
市債その他(千円)	10,300	6,300	2,326	物件補償費	33,100	
一般財源(千円)	17,106	2,892			7,801	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	幅員が狭く見通しの悪い市道の交差点が多い。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	交差点改良の要望が多く、市民の安全のため早期に交差点改良を行う必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	交差点改良工事、物件調査委託	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	物件調査委託	61,882	74,312	当初	64,013	R1からの繰越	10,299
				R1⇒R2繰越	10,299		
③達成状況	未完了			補正	0	現年分	7,596
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。			流用・充当	0		
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				30,394	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	一般市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。
②①に基づく取組み結果	市道3315号線の冠水対策のため排水整備工事を発注した。市道2107号線の用地測量を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市道	意図(対象をどうするのか)	安全でゆとりのある道路に整備する。
②事務事業の概要	道路排水施設の整備、舗装新設、狭あい路線の拡幅を行い地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	生活道路となる一般道路が未整備で、舗装整備や道路排水整備の必要があります。住民の生活環境が向上するよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	市道3315号線、市道3691号線排水整備工事を実施した。 市道2107号線用地測量委託						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i 工事延長		-	189	99	m	業務取得
	ii 工事延長【平成23年度から累計】		3,371	3,560	3659	m	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度		65.7	-	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	30,434	16,655	金額(千円)	内容		46,247	
国支出金(千円)	0	1,565	2,534	市道2107号線用地測量委託		4,313	
県支出金(千円)	0	0	8,927	市道3315号線排水整備工事		0	
市債その他(千円)	15,600	12,100	3,300	市道3812号線道路整備工事		34,200	
一般財源(千円)	14,834	2,990	1,298	市道3691号線排水整備工事		7,734	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路排水施設の未整備箇所、舗装の不良箇所が多い。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げするため、一般市道の整備は不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	排水整備、道路改良、用地測量	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	排水整備、用地測量	33,582	38,096	当初	33,582	R1からの繰越	3,831
				R1⇒R2繰越	4,015		
③達成状況	未完了	33,582	38,096	補正	0	現年分	12,824
				流用・充当	499		
④未完了・非着手の理由	市道3812号線道路改良工事をR3年度に繰越したため	令和3年度への繰越額(単位:千円)				10,707	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	私道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	申請のあった私道整備工事を早期に発注し利用者の利便性を向上させる。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	申請のあった際には早期に私道整備工事を発注しすることが出来るよう、利用者と調整を行う。
②①に基づく取組み結果	早期に発注し利用者の利便性を向上させた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	私道	意図(対象をどうするのか)	舗装整備工事、舗装修繕工事を行う。
②事務事業の概要	未舗装私道の舗装及び舗装済み私道の補修を行い、地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始当初は多くの私道が未舗装で日々の生活や環境・衛生面に悪影響を及ぼしていたが、本事業の推進により未舗装区間が少なくなってきた。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	舗装整備工事を実施した。 整備工事(L=254m)						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	14	140	254	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	1,575	1,715	1,969	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	65.7	-	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	3,070	9,503	金額(千円)	内容		0	
国支出金(千円)			9,503	舗装整備工事			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	3,070	9,503				0	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	私道舗装整備要綱を見直し、補修工事についても実施することになったことから、この制度を広く市民に周知すること。					
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	道路は市民生活に必要不可欠であることから、事業を進めていく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	私道組合(舗装整備工事、舗装補修工事)	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	私道組合(舗装整備工事、舗装補修工事)	9,503	10,873	当初	11,240	9,503	R1からの繰越	0
				補正			現年分	9,503
③達成状況	完了			流用・充当	-367			
④未完了・非着手の理由		令和3年度への繰越額(単位:千円)						0

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。
②①に基づく取組み結果	市道1号線の用地取得を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	通学路に指定されている市道	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成24年度に実施した緊急合同点検により対策が必要な通学路を抽出し、通学路の拡幅や歩道を確保し登下校時における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	市道1号線の物件補償と用地取得(A=1,046㎡)を実施した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	5.7	4.8	4.8	% 業務取得
	ii	事業費【平成24年度からの累計】	127,557	195,016	291,355	千円 決算書
	iii	工事延長【累計】	115	115	115	m 業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	67,459	96,339	金額(千円)	内容	101,364	
国支出金(千円)	29,565	50,130	65,368	物件補償費	46,920	
県支出金(千円)	0	0	19,480	用地購入費	0	
市債その他(千円)	21,800	39,900	7,270	物件調査費	34,500	
一般財源(千円)	16,094	6,309	3,531	不動産鑑定費	19,944	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	児童・生徒の通学路の安全性を早期に向上させる必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	市道1号線用地取得、市道49号線用地測量	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	市道1号線用地取得	32,000	153,070	当初	82,162	R1からの繰越	70,701
				R1⇒R2繰越	70,908		
③達成状況	未完了			補正	0	現年分	25,638
				流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由	用地測量業務が年度内に完了しなかったため	令和3年度への繰越額(単位:千円)				53,957	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の日安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	関係市と協力して、河川・水路の整備を引き続き進める。
②①に基づく取組み結果	松戸市が実施する紙敷川改修事業において、事業に要する負担金を支出した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要な水路 その他の水路	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、1時間あたり50mmの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	松戸市主体により実施している、紙敷川改修事業において、詳細設計委託及び用地取得を(A=31.1㎡)実施した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.5	6.5	6.5%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.6	2.6	2.6%	業務取得
	iii	浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9ha	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	3,721	651	金額(千円)	内容	15,116	
国支出金(千円)			651	令和2年度紙敷川改修事業負担金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)					8,500	
一般財源(千円)	3,721	651			6,616	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下流河川の整備の日安がついていないため、1時間あたり50mmの降雨に対応した整備に取り組めていない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	紙敷川改修負担金	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	紙敷川改修事業の詳細設計委託及び用地取得	1,020	1,020	当初	1,020	651	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		現年分	651
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				令和3年度への繰越額(単位:千円)		0		

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護のための暫定改修や、1時間あたり50mmの降雨に対応した河川の改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んでいる場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・準用河川二和川バイパス整備工事を実施した。(L=115. 2m) ・準用河川二和川護岸改修工事を実施した。(L=61. 5m) ・準用河川二和川の物件補償と用地取得を実施した。(A=336. 5㎡) 						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	暫定改修実施率	21.9	21.9	22.5	%	業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.4	11.4	11.4	%	業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	81.5	81.5	80.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	298,396	497,290	金額(千円)	内容		561,967	
国支出金(千円)	64,300	108,700	70,644	準用河川二和川バイパス整備(第5期)工事		70,713	
県支出金(千円)			118,582	準用河川二和川バイパス整備(第6期)工事			
市債その他(千円)	210,388	154,811	100,874	準用河川二和川護岸改修第32期工事		209,400	
一般財源(千円)	23,708	233,779				281,854	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻りの無いよう実施する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	浸水被害により、市民の生命・財産に被害が及ぶ恐れがあるため、速やかに河川改修を行う必要性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	二和川整備及び二和川護岸改修	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	二和川バイパス整備、二和川護岸改修及び物件補償、	631,885	766,172	当初	401,667	497,290	R1からの繰越	131,843
				R1⇒R2繰越	131,848		現年分	
③達成状況	完了			補正	230,218			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	2,439			
				令和3年度への繰越額(単位:千円)				253,075

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況の変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	・鎌ヶ谷二丁目地区(5期):38.6m、鎌ヶ谷八丁目地区:12m、東道野辺七丁目地区:10.5m、中央二丁目地区:浸透樹設置2箇所の地域排水整備工事を実施した。 ・雨水浸透樹設置モニター工事にて雨水浸透樹を15基設置した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	整備工事完了・着手箇所数	22	24	25	箇所	業務取得
	ii	浸水面積(地域排水)	10	10	9.3	ha	業務取得
iii	浸透樹設置基数	7196	7265	7347	基	業務取得	
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	130,091	50,689	金額(千円)	内容		66,190	
国支出金(千円)	0		28,617	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第5期)		0	
県支出金(千円)	0		832	雨水浸透樹設置モニター工事		0	
市債その他(千円)	66,000	42,200				24,300	
一般財源(千円)	64,091	8,489				41,890	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、放流先の整備状況や費用対効果を考慮し、事業を進める必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	鎌ヶ谷二丁目及び八丁目、東道野辺五丁目及び七丁目、初富字林跡及び字五本松、、中央二丁目、浸透樹モニター。	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	鎌ヶ谷二丁目及び八丁目、東道野辺五丁目及び七丁目、初富字林跡及び字五本松、、中央二丁目、浸透樹モニター。	76,286	82,471	当初	76,286	50,689	R1からの繰越	8,624
				R1⇒R2繰越	8,624			
③達成状況	未完了			補正	0		現年分	42,065
④未完了・非着手の理由	東道野辺五丁目地区地域排水整備詳細設計委託、初富字五本松地区地域排水整備工事を繰越をしたため。			流用・充当	-2,439			
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				25,575		

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減を図るため、早期に事業を完了させるべく、鋭意用地取得を進める。
②①に基づく取組み結果	串崎新田貯留池整備事業に伴う用地取得を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う 雨水の流出を抑制する
②事務事業の概要	大雨時における流出抑制のための貯留池整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる、依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	串崎新田貯留池整備事業に伴う用地購入等(A=1, 109㎡)を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	河川貯留池の暫定整備率	87.5	87.5	87.5	業務取得
	ii	河川貯留池の整備率	57.1	57.1	57.1	業務取得
	iii	貯留量	43,520	43,520	43,520	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	53,224	31,865	金額(千円)	内容	57,430	
国支出金(千円)			28,496	串崎新田貯留池用地購入		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	37,900	29,300			34,800	
一般財源(千円)	15,324	2,565			22,630	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	放流先の河川の能力が不十分となっている中で、貯留池整備は有効な治水対策であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	用地購入、詳細設計委託	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	用地取得	44,074	44,074	当初	44,074	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		
③達成状況	未完了	44,074	44,074	補正	0	現年分	31,865
				流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由	串崎新田貯留池実施設計委託について繰越したため。	令和3年度への繰越額(単位:千円)		7,691			

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画道路3・4・5号船橋我孫子バイパス線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。
②①に基づく取組み結果	事業主体である千葉県と連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・5号線	意図(対象をどうするのか)	整備することで交通の利便性を向上
②事務事業の概要	鎌ヶ谷市の南北の交通円滑化と周辺地域の利便性の向上を図るため、県道船橋我孫子線のバイパスとして県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	南初富区間から新鎌ヶ谷地区まで供用開始したことにより、県道船橋我孫子線のバイパスとしての機能を発揮することが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	用地取得(A=60㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度		65.7	-	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	7,053	6,281	金額(千円)	内容		10,731	
国支出金(千円)			6,281	市町村負担金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)	1,800	2,200				7,400	
一般財源(千円)	5,253	4,081				3,331	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	境界が未確定の箇所があり、確定させる必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	機能的な道路ネットワークの構築や利用者の利便性・安全性の向上を図るべく道路の完成を目指す必要性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	地元負担金	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	地元負担金支出	4,694	12,738	当初	1,000	6,281	R1からの繰越	3,511
				R1⇒R2繰越	3,694		現年分	
③達成状況	未完了			補正	8,044			
④未完了・非着手の理由	事業主体である千葉県が繰越したため	令和3年度への繰越額(単位:千円)						
		4,050						

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	早期に周辺整備工事に着工できるよう仮線撤去工事を進める。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	仮線撤去された区域の借地返還及び周辺整備工事を進める。
②①に基づく取組み結果	仮線撤去に着手した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	交通ボトルネックの解消、道路の安全性、生活環境や利便性の向上のため早期に周辺整備工事を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	関連側道、交差道路整備に向け、仮線撤去に着手した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	% 業務取得
	ii	事業進捗率(事業費ベース)	86	89	90	% 業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	399,272	263,039	金額(千円)	内容		506,015
国支出金(千円)			263,039	市町村負担金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	354,700	215,000				399,400
一般財源(千円)	44,572	48,039				106,615

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	交差道路、関連側道等の整備が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市街地の分断解消に向け、早期完成が必要であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	負担金	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	212,729	437,031	当初	212,729	263,039	R1からの繰越	224,302
③達成状況	未完了			R1⇒R2繰越	224,302		現年分	38,737
④未完了・非着手の理由	事業主体である千葉県が繰越したため。			補正				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)						129,942

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷西側地区都市計画道路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。
②①に基づく取組み結果	交付金を活用し、物件補償と用地取得を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・3・16号線、都市計画道路3・4・10号線	意図(対象をどうするのか)	用地取得を行う。
②事務事業の概要	新鎌ヶ谷地区の東西を連絡する都市計画道路を整備することにより、円滑に通過交通を誘導し、歩行者等の安全性を高める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	物件補償と用地取得(A=727㎡)を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	65.7	-	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	87,467	246,321	金額(千円)		内容	287,315	
国支出金(千円)	42,149	120,971	134,866		物件補償費	132,826	
県支出金(千円)	0	0	99,545		用地購入費	0	
市債その他(千円)	37,500	93,300	8,305		物件調査費	97,700	
一般財源(千円)	7,818	32,050	2,240		不動産鑑定費	56,789	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	当該都市計画道路は東西にアクセスする道路がないため、早期に事業を進めていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市内中心部の交通を円滑に処理し、道路利用者の安全性や利便性の向上を早急に図る必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	用地取得	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	用地取得、物件補償	100,000	380,755	当初	120,882	R1からの繰越	59,065
				R1⇒R2繰越	59,065		
③達成状況	未完了	100,000	380,755	補正	200,808	現年分	187,256
				流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。	令和3年度への繰越額(単位:千円)				132,919	